

カリキュラム

機構施設名： 山口職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社テクノ経営総合研究所

(B) 生涯キャリア形成	若手従業員に気づきを与える安全衛生活動(実施編)
技能・ノウハウ継承	

コースのねらい	中堅・ベテラン従業員がこれまでの経験を活かして、自ら安全衛生活動に取り組むことにより企業内の安全意識の向上に寄与するとともに、誰もが実施している5S等を通じて、若手従業員に対して安全活動の重要性について伝達するための知識と技能を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)	
講義内容	1	安全衛生意識の醸成	(1) 現状の把握 ～厚生労働省の労働災害発生レポートから～ 日本の労働衛生環境は良化しているとはいうものの労働災害はあとを絶たない。特に若年者の労働災害が目立つ。厚生労働省のレポートから労働災害の実態を正しく把握し、安全衛生活動の重要性をあらためて理解する。 (2) 労働災害とは ～ヒヤリハットの事例、労働災害の事例～ 「労働災害とは」についての基本的考え方を事例を踏まえて整理する。重大災害につながる「ヒヤリハット」の事例に加えて、実際の労働災害の事例についても触れて、その原因と対策を考える。 (3) 労働安全衛生法令 ～安全と健康を確保するためのルール～ 広範囲に労働者の安全と健康を確保するためのルールである労働安全衛生法令について、事業者の責務や罰則規定など基本的な内容を理解し、中堅・ベテラン従業員がなすべきことを考える。	2.0
	2	安全衛生活動の考え方	(1) 5Sについて考える【演習あり】 ～5Sの真の目的は～ 安全衛生活動の実践の事例として「5S」について考える。ムダに気づき、ムダを解消することで生産性が大きく向上する。生産性が向上すると労働者の負担が軽減され安全への意識が高まる。「5S」の効果を実感し、安全衛生意識の向上に結びつける。 (2) 危険予知(KY)活動について【演習あり】 ～危険ポイントを把握して事故を予防～ 危険に対する感受性を鋭くすることで、作業現場から危険な要素を取り除くことができる。日常的に自ら危険を回避する行動を行うことができるようになる。危険予知(KY)活動の実践で危険に対する感受性の向上に繋げる。	2.0
	3	ノウハウの伝承方法	(1) 暗黙知から形式知へ ～経験や感覚を言葉にする[マニュアル化]～ 作業のノウハウを正しく伝え、「暗黙知」を「形式知」に昇華させることで、熟練者が経験的に把握している危険な場所や危険な要素を若年者(未熟練者)にも理解させることができる。形式知化で安全を定着させる。 (2) リスクアセスメント、作業安全チェック ～役割を踏まえた現場力の伝承～ 暗黙知の形式知化を、リスクアセスメントと作業安全チェックの面から考える。形式知化による「不安全状態」と「不安全行動」の撲滅で、安全意識を高めて労働災害ゼロを目指す。 (3) 本日のまとめ ～全員参画でゼロ災を～ 安全衛生意識が高まり、自主的で活発な活動を行なえる職場にするためのキーワードは「全員参画」。ゼロ災に向けて全員参画で自律的な職場を目指す。	2.0
	合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント	言うまでもなく「安全衛生」は企業の根幹となる要素です。安全衛生パトロールは重要な活動ですが、パトロールのみに頼る安全衛生活動には限界があります。現状を正しく把握し、進め方を正しく理解したうえで安全衛生意識の向上と伝承が実現できるように、基本知識の習得に加えて、事例・演習・ディスカッションを多用したカリキュラムとしており、全員参画による職場での実践を目指します。
---------------	---

講師から一言	安全衛生意識の向上と伝承ができるように事例・演習・ディスカッションを通じて、基本的な知識の習得と全員参画による職場での実践を目指します。
--------	--